

# 茶の湯空間

# の近代

世界を見据えた和風建築

桐浴 邦夫 著

2018年2月刊行

〔内容目次〕

はじめに

第一章 茶の湯空間の近代、その概要

世界の視点・近代の視点からの茶の湯空間  
近代以前の茶の湯空間とその影響  
西洋文化の受容と茶室

ジェントルマン・アーキテクトと茶室  
シヨナル・アーキテクト

第二章 公の場所に設置された数寄屋

冬の時代に誕生した茶の湯空間  
明治初期の東京の公園と社交施設  
芝公園と紅葉館  
麴町公園と星岡茶寮

麴町公園と星岡茶寮

第三章 明治期の茶室の文献

明治期の茶室と茶の湯の文献

今泉雄作「茶室考」

本多錦吉郎『茶室構造法』

武田五一の茶室研究

好古類纂・桂離宮と茶室

第四章 大正期の茶室の文献

大正期の雑誌にみる茶室  
田園都市と田舎家と茶室

第五章 昭和前期の茶室の文献

近代建築による茶の湯空間の再発見

「茶室と茶庭」特集号

「日本建築再検・数寄屋造」特集号

「近代数寄屋建築」特集号

「茶室建築」特集号

第六章 近代の安土桃山イメージ

猿面茶室と愛知県博覧会

豊臣秀吉と近代の茶室

近代の利休イメージと茶室

第七章 高谷宗範と松殿山荘

高谷宗範の建築活動

芝川邸をめぐって

松殿山荘

あとがき／索引

高度な技術と類まれな意匠をもつ近代数寄屋建築は、かねてより世界から高い注目を集めてきた。一方で国内において、近代の茶の湯空間についての研究は、建築史においても茶の湯研究においても主流とはならず、場合によっては否定的な見方さえされてきた。

本書は、近代数寄屋建築の数少ない専門家である著者が、近代茶の湯の系譜を考慮しつつ、「茶の湯空間」が近代においてどのような理解されてきたのかを読み解く試みである。近年、国内においても伝統建築の保存や活用についての関心が高まっている状況において、近代和風建築関連の諸研究の発展に寄与せんとするものである。

▼A5判・二八〇頁／定価：本体五、八〇〇円（税別）

（きりきこ・くにお）…1960年、和歌山県生。京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。工学博士。京都建築専門学校副校長。著書に、『近代の茶室と数寄屋 茶の湯空間の伝承と展開』（淡交社）『世界で一番やさしい茶室設計』（エクスマレッジ、中国語（繁体字）林書嫻訳『日式茶室設計』、易博士出版社）など。

思文閣出版

〒606-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009  
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	茶の湯空間の近代		本体5,800円(税別) ISBN978-4-7842-1930-8	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

## 茶と室内デザイン

小泉和子編

日本的とされる日本住宅の室内デザインはほとんどが茶によって育まれた。茶が日本住宅の室内意匠に与えた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録し、豊富なカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える一書。

▶B5判・224頁／本体3,500円(税別) ISBN978-4-7842-1808-0

## ※建築史論聚

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

日本建築の歴史的伝統を深く把握してこそ、新しい時代の建築を創造できるとした建築史学の泰斗・中村昌生氏(京都工芸繊維大学名誉教授)の喜寿を記念し、薫陶を受け研鑽を重ねてきた研究者たちがオリジナル論文を持ち寄る。寺社建築／茶室／建築生産史・都市史／近代建築についての15篇。

▶A5判・590頁／本体9,000円(税別) ISBN4-7842-1202-7

## ※大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本

谷直樹編著

江戸幕府の京都大工頭を代々務めてきた中井家に伝来する史料には、中井家の職務に対応して、城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺院、神社、数寄屋、書院の指図があり、江戸時代の建築に関する詳細な情報を得ることができる。図版517点を大判で収録し、解説を付す。

▶B4判・360頁／本体18,000円(税別) ISBN4-7842-1148-9

## 講座 日本茶の湯全史 [全3巻]

茶の湯文化学会編

茶の湯文化学会創立20周年記念出版。「中世」「近世」「近代」の3巻にわけて、時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論から成る。各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示する。最新の研究成果をふまえて茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。

▶46判・平均330頁／各本体2,500円(税別)

## ※近代数寄者のネットワーク

茶の湯を愛した実業家たち

齋藤康彦著

高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三…近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出する。

▶A5判・308頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1603-1

## ※近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか? 千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。平成25年度茶道文化学術奨励賞受賞。

▶A5判・332頁／本体6,400円(税別) ISBN978-4-7842-1693-2

## 京都 近代の記憶 場所・人・建築

中川理著

東京遷都により没落の危機に見舞われ、都市改造や近代建築の導入に積極的に取り組む一方で、まさに生き残りを懸けて「千年のみやこ」を演じてきた街、京都。いまある京都の魅力はいつ、どのように作られたのか? 場所・人・建築をキーワードに様々なエピソードで綴る。

▶A5判・184頁／本体2,200円(税別) ISBN978-4-7842-1812-7

## 京都 近代美術工芸のネットワーク

並木誠士・青木美保子編

近代京都の美術工芸にまつわるヒト・モノ・コトのネットワーク。点でも線でもない、ネットワークという「面」からアプローチする試み。ビッグネームだけでは構築されない美術工芸の現場をあぶりだすことにより、よりヴィヴィッドな美術史が見えてくる。

▶A5判・352頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1882-0

## 春秋 京大和翠紅館 平安から平成まで 京の雅

木村幸比古・中根史郎・中村昌生著／梅原猛序文

京都の老舗料亭京大和は、江戸時代には西本願寺の別業であり、翠紅館と称された。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や敷内流の茶室について、和建築の第一人者である中村昌生氏が、多数の図面とともに詳述する。

▶B5判・80頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1417-4

## 『作庭記』と日本の庭園

白幡洋三郎編

日本最古の作庭理論書として知られる『作庭記』には、中世の人々の作庭技術のみならずその背後に宿る思想・美意識が反映している。そうした着想から企画され、さまざまな専門分野からの意見を出し合い、議論し、「日本庭園を通じた古代・中世的自然観」の発見を試みる。

▶A5判・364頁／本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1746-5

## 日本庭園像の形成

片平幸著

「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、そして日本はそれに対してどのように反応したのか。19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にとどり、1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程を追う。

▶A5判・240頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1718-2

## 熊倉功夫著作集 [全7巻]

熊倉功夫著

伝統とは、美とは、日本とは——。文化史の諸領域にわたり茶の湯を軸として、鋭敏な感覚で鮮やかに本質を明らかにする。

【内容】①茶の湯一心とかたち／②茶の湯と茶人の歴史／③近代茶道史の研究／④近代数寄者の茶の湯／⑤寛永文化の研究／⑥民芸と近代／⑦日本料理文化史

▶A5判・平均500頁／(各)本体7,000円(税別)

## 野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸部編

野村グループの創始者・得庵野村徳七(明治11年～昭和20年)の文化遺産の精華は、京都の別邸碧雲荘(重要文化財)と、その隣で得庵のコレクション3000点を所蔵・展示する野村美術館に伝えられている。本書は、野村美術館設立30周年記念事業として、野村得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。

▶A5判・506頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1701-4

## ※近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

▶A5判・454頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1377-1

## 近代日本の空間編成史

中川理編

わが国戦前の空間はどのように編成されてきたのか——。個別の事業史の議論にとどまらず、日本近代化の過程全体の歴史の中で考究。建築史、都市計画史、土木史、造園史、歴史学など歴史的研究に携わる一線の研究者が、広くわが国の空間変容の実相を描き出す。

▶A5判・548頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1891-2

## ※京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとげて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。

▶A5判・300頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1641-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。